

平成 26 年度夏季

兵庫県ワシントン州事務所インターンシップ報告書

看護学部 2 回生

今 明日香

○ インターンシップの内容

今回のインターンシップは私が看護学部生ということで、兵庫県ワシントンオフィス所長から紹介していただいたシアトルの NPO 法人 Nikkei Concerns でボランティアをさせていただきました。

Nikkei Concerns は日系アメリカ人 2 世の方々が、その親世代の日系アメリカ人 1 世のために 1975 年に立ち上げた組織です。かつて日系人はアメリカで差別に苦しむ歴史がありました。そのため、日系アメリカ人の高齢者がアメリカで日本の文化、習慣を大切にしながら安心してケアを受けられる老人ホームを設立するという目的で立ち上げられました。ちなみに寄付で立ち上げられた団体だそうです。

現在はその中で 4 つの組織が運営されています。日本でいう介護付き老人ホームの Seattle Keiro、住宅型老人ホームの Nikkei Manor、デイサービスの Kokoro Kai、生涯教育の Nikkei Horizon です。私は Seattle Keiro 及び Nikkei Manor で週 2 日と 3 日ずつ、月曜から金曜まで週 5 日、10 時から 15 時まで 4 週間ボランティアさせていただきました。

ボランティア内容は主に施設居住者とのコミュニケーション、アクティビティや外出の補助です。また、私はアメリカの看護とソーシャルワークに興味があったので、そのことをボランティアコーディネーターの方に伝え、看護師やソーシャルワーカー、その他多職種の集まるカンファレンスへの参加や、看護師長やソーシャルワーカーに丸 1 日ついて仕事を見せていただいたりしました。



○ インターンシップで得たこと

今回のボランティアで看護職としてよりも一人の人間として、国籍や習慣・文化に関わらず、一人ひとりの人を大切にする心を持つことの大切さに改めて気がつきました。

ボランティア先の施設にはあらゆるバックグラウンドを持つ居住者がおられ、約 20 カ国語が話されているとのことでした。前述の通り、Seattle Keiro は日系アメリカ人のために創設された施設ですが、時代の流れとともに日系人だけでなくアメリカで暮らすあらゆるアジア諸国出身者が利用されるようになりました。また、日系人と一言と言っても日本語と英語バイリンガルの

方、日本語しか話さない方、英語しか話さない方、日によって使う言語が違う方等、色々な方がいらっしゃいました。

共通言語は英語とされていたため、その中で例えば日本語がわからない人のいるところで日本語だけを使って会話をするのは虐待（ネグレクト）とされていました。Seattle Keiro では徘徊の可能性の高い認知症居住者のエリアでボランティアさせていただいたために認知症の方達と接していたのですが、どのような状態にあっても個々の意思を尊重するケアが行われていたことがとても印象に残りました。

日々多様な方と接するうちに、当然ですが一人ひとりの居住者の特徴や違いがわかってくるようになりました。言葉がわからなくても、意思疎通が難しくても、一緒に楽しく歌ったり、散歩をして外の世界を楽しんだり、幸せな瞬間を共有できる時がたくさんありました。そうした方達の表情や様子から私は大きな力をもらいました。また、日系人や同じ国の出身者でも、似た人物像として一括りにできるのではなく、それぞれの方が様々な個性を持っていることにも気がつきました。言葉にすると当たり前のことなのですが、実際に接してみて、国籍や出身地による決めつけをしていた自分に改めて気付きました。

これから日本においてもグローバル化が進み、今まで聞いたことのないような国の方と出会ったり、違う文化にカルチャーショックを受けたりすることも沢山出てくると思うのですが、どのように時代が移り変わろうとも大切なのは、一人ひとりの「人を思いやる心」だと感じるようになりました。遠くにいるから、自分とは関係ないからどうだって良いのではないと思います。文化や習慣の違いはあっても、自分だったらどう感じるだろうか？と思う感受性を持つことがグローバル社会では根本的に大切なことではないだろうかと思うようになりました。

○ これからの自分にどう活かされていくか

今回の留学で、自分の考えも他者の意見も大切にすることを当然とする意識を持つこと、リーダーシップを発揮するための姿勢や土台作りについて学びました。

アメリカでは年齢や性別など関係なく、自己決定と個人の意思が強く尊重されることに驚きました。例えば、ボランティア先の施設のカルテの一番初めのページには延命措置についてのその人の意思が細かく記載されていました。人工呼吸や経管栄養をどの程度行うかを入所前、入所後定期的に意思を聞き、いつでも考えが変わったときにそれを変更することもできるそうです。またある日、認知症の方を歯医者に連れて行った際、その人が治療を少しでも拒むとすぐにその日は治療拒否とみなされ、次回に再度行うという措置がとられていました。それは子どもの治療でも同じようです。意思が尊重されるのは裏を返せばそれだけ自己責任の重い国と言えそうですが、自分の意思を伝えにくい立場にいる人達が声を上げ、それをきちんと聞き入れるシステムになっていることは積極的に学ばなければならないと感じました。会議では、出た意見は誰が言ったのかよりも、その意見の質が議論に貢献していたことが印象的でした。

施設の看護師長の仕事を見せていただいた時、彼女は掃除の方から看護師、介護士、ボランティア全ての人に温かな言葉をかけて施設内をまわっていました。自分のいる場の環境は自ら作るものであることを彼女の仕事から学びました。それとともに、彼女は看護職の可能性を色々と教え

て下さいました。臨床で患者さんのケアにあたりたいならその道を、特定の分野に興味があるのならその分野を、マネージメントに興味があるのならその道をいけば良いと、とても柔軟な考えを教えてくださいました。私は看護職を選んだことに迷いはなかったのですが、唯一ずっと胸の中で看護師の働き方やキャリアの選択についてもやもやした気持ちがありました。そのために彼女の意見を聞いてとても自由な気分になれた気がしました。

今回の留学で学んだことから、自分の軸は持ちながらも他者の意見を大切に扱うこと。議論を行う際には単に同じ意見を再確認するのが目的ではなく、より良い決定をすることを目的として忘れないこと。それには一部の意見ではなくより多くの声が必要であるために意見を平等に扱うこと。自分のいる場の環境は自らが作る意識をもつこと。

これらを今後自らの姿勢として身につけ、学業や将来の仕事で実際に活かしたいと思います。

○ 後輩たちに引き継いでいきたいこと、メッセージ

今回の経験から伝えたいメッセージは、少しでも興味が湧くことには3日坊主になることを恐れず、とにかく挑戦してみることに。同じ興味を持つ人のいるところに所属してみることに。完璧にはなれないし、なる必要はないことを知っておくこと。楽しむこと。

私は社会人を経験して現在大学にいます。社会人時代海外旅行は好きでしたが、日常会話ができれば満足で、英語で自分のことを伝えられるようになるまで上達しようと考えたことは一度もありませんでした。

社会問題にも興味はありましたが、自分の手の届く範囲の問題しか考えたことがありませんでした。しかし大学に入り、久しぶりに英語に触れたことや、話せることが楽しくなったこと、同じようなことに興味を持つ友達ができたと、グローバルリーダー教育ユニットという講義を知り、何となく面白そうだからやってみようかなと挑戦したこと、履修登録したら逃げられなくなったこと、しかしそこでまた面白い人達



に出会えたことなどがとても強い刺激になり、私の世界を以前の私からは想像がつかない程どんどん大きくしてくれました。そんな中で、何が何なのか分からない中にも、好奇心を持ち続けて一度一歩を踏み出してしまえば、また次の一歩を踏み出す場所が見えてくることも知りました。

自分が今いる場を楽しむことで、新たなことにも挑戦でき、色々な人と繋がれることを知りました。少しでも自分が楽しく過ごすことを大切にしたいと感じています。

ワシントン州シアトルは、マイクロソフトやアマゾン、スターバックス、ボーイング、ワシントン大学など世界的に有名な企業や教育施設があります。シアトルでそうした世界の風を感じてみてください。